

11月

令和4年度 生涯学習情報

まなび ましょう

8号

令和4年11月10日発行

大桑村教育委員会・大桑村公民館



生涯学習情報「まなびましょう」は大桑村のホームページにも掲載しています。

掲載内容に関するお問合せは 大桑村教育委員会生涯学習係 0264-55-1020

(平日 8:30-17:15)

大桑村図書館からのお知らせ

イベント

おはなし会

未就学児を対象としたおはなし会です。新しくできた大桑村図書館横のキッズルームで、一緒に手遊びやお話を楽しみませんか。

日程 令和4年11月27日(日)

10時30分から

場所 大桑村図書館

話者 原田 紗千子 さん(文庫もも)
平中 和司 図書館長



おすすめの
本

図書館“司書”作家の本

図書館には“司書”がいます。司書とは、図書館で資料の収集、整理、保存、貸出から情報サービスや読書案内などを行う専門的職員で、図書館法に定められた国家資格を取得しています。今回は、司書資格を保有している作家や、図書館で働いたことがある作家の本を紹介します。



スクラッチ

歌代 朔 / 著

あかね書房 913.6/ウ

コロナ禍で「総体」が中止になったバレー部キャプテンの鈴音。美術部部長の千咲は出展する予定の「市郡展」も審査が中止。「平常心」と自分に言い聞かせ「カラフルな運動部の群像」の出展作を描き続ける千咲のキャンパスに、鈴音が不注意から墨を飛ばしてしまい…



鯉姫婚姻譚

藍銅 ツバメ / 著

新潮社 913.6/ラ

若隠居した大店の跡取り息子・孫一郎は、人魚のおたつに求婚されてしまう。諦めさせるためにも、おたつにねだられるままに御伽話を語る孫一郎だったが、次第にその心は変化していく。しかし、人魚と人間がともに暮らせる未来があるわけでもなく…



ポーチとノート

こまつ あやこ / 著

講談社 913.6/コ

未来の机の引き出しに入っているのは水色のノート。中学の頃からその時感じた気持ちをこっそりと綴っていた。そして、もう一つは10歳の時にプレゼントされたのにまだ一度も使われたことがない生理用品の入ったポーチ。誰にも言えない体の悩みを抱えていた未来がある日恋に落ちて…



監禁

秋吉 理香子 / 著

双葉社 913.6/ア

幼い娘の育児と仕事の両立に限界を覚えた由紀恵にとって、今日が勤務の最終日。夜勤の間は、夫の雅之が自宅で娘を見ている。だが、ラインのメッセージに返事はない。電話をかけても繋がらない。由紀恵は自分に執着していた不気味な患者の存在を思いだし、胸騒ぎを覚える。家族の絶望と狂気、そして再生を描いた戦慄のサスペンス。

紹介した本は、大桑村図書館で展示(貸出可)しています。

お問合せ

大桑村図書館 ☎ 0264-55-2321

(10:00-18:00

※月曜・毎月最終火曜休館)

大桑村歴史民俗資料館からのお知らせ

展示

森のピエロのなかまたち 陶芸作品展

期間 令和4年11月12日(土)～20日(日)

※最終日/14:00まで

今年も、「森のピエロ陶芸教室」と「大桑村陶芸教室」合同作品展を開催します。形や釉薬を工夫しながら制作した作品を、ぜひご覧ください。

制作風景



展示

木曽書道展

期間 令和4年11月22日(火)～27日(日)

※初日/午後より、最終日/15:00まで

今年は「長野県書道展」も開催されますので、関連の大作も展示予定です。学生作品は小学生から高校生まで、元気と力のあふれる作品を展示します。

みなさんのご来館をお待ちしています。

講座

県立歴史館の信州学出前講座 in 大桑村『伊能忠敬と信州』

日時 令和4年11月19日(土) 13:30～15:10

会場 大桑村役場 多目的ホール

講師 小野 和英 氏
(長野県立歴史館総合情報課長)

伊能忠敬は日本で初めて全国の測量を行い、地図を作りました。測量隊は信州へ4回測量にきますが、大桑村へやってきたのは文化6年(1809)、10月5日に須原宿、6日に野尻宿に泊まっています。

※参加無料・要申込



伊能忠敬 像
(千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵)

お問合せ・申込み 大桑村歴史民俗資料館 ☎ 0264-55-3550 (9:00-16:30 ※月曜休館)

大桑村教育委員会からのお知らせ

古道探訪 ～先人の記録を辿って～

地域のみなさんからの聞き取りや、古い資料をもとに、村内にある「古道」を実際に歩いてみました。安全で歩きやすい道は、「ゴールデンシュエの日」のコースにすることがあります。

ゴールデンシュエ運動とは大桑村独自で昭和53年から実施している健康づくり運動です。「自分の健康は自分で守る！」を目的に、体力に応じて集まった仲間と歩きます。

森林鉄道跡【野尻地区】

今回は、野尻地区大曲から川向地区の鉄橋へ続く森林鉄道の跡を辿ってみました。

- ① 道の両側に当時のものと思われる法面保護の石垣が残っていました。
- ② 50mほど歩くとすぐ、低木や竹が茂る歩きづらい道に変わりました。
- ③ 約400mの道のりでしたが20分ほどかかり、竹ノ沢の鉄橋跡までたどり着きました。この道を通っていた鉄道は、昭和40年代に森林鉄道が廃線になるまで使用されていました。阿寺溪谷や小川地区から伐りだした木材を野尻駅の貯木場へ運ぶ重要な鉄道でした。
- ④ 川向分館の裏には当時の橋脚が残っています。
- ⑤ そこから木曽川沿いの竹林の中に野尻駅付近と同じ石垣の構造が続いていました。道の状態が悪く、歩きづらい道が続きましたが、森林鉄道があった当時の雰囲気を感じられる道でした。

